

自動車生産・販売増、住宅着工は減

橋本金属・アルミ 橋本健一郎氏リポート①



三月前半は、トランプ大統領が上下両院合同本会議で初めて施政方針演説で米経済政策について法人減税を含む「歴史的な税制改革」や「一兆ドルのインフラ投資」といった大枠を改めて示したこと、チリ・エスコンティーダのスト、インドネシア・グラスバーグの世界二大銅山のストに加え、ペルーのセロ・バルデ銅山がスト入りした事などのプラス材料もあつたが、中国全人代で二〇一七年の国内総生産(GDP)の成長率目標を前年の「六・五~七%」から「六・五%前後」に引き下げたこと、LME在庫が更に三万八、一七五t増加し三二万七、五〇〇tと今年一月以来三〇万tを超えたことを嫌気しLME銅相場はDOWN。三月十五日時点で五、七四七ドルセツルと月初価格より一八九ドルDOWNの前半締めとなつた。

後半は、チリ銅鉱山でのストで和解の可能性がでてきたこと、インドネシア・グラスバーグで鉱石生産が再開されたこと、上海銅プレミアムが四五ドルまでDOWN、一年ぶりの低水準在庫が一ヶ月で五五トンから六二万トンに増加したため、などのマイナス材料もあつたが、ペルーでの洪水を受けて鉱石を運ぶための鉄道が二、三週間止まるとの公算や米F.R.Bが三月のFOMCで予想どおり〇・二五%の利上げを確定したことから、今まで買い進まってきたドルが売られ、ドル安の流れを受けたこと好景気LME銅相場はUP。四月四日現在、後半スタート価格から一六七ドルUPの五、八一七ドル。銅建値六九万円のスタート。

◆月間のドル/円レート (TTS)

一一三・七三二→一〇二・八九(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一・二%増の八五万台、五一六万台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比二・六%減の七万〇、九一二戸であった。

◆貿易関連指標

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除)は前年比一三・八%増の四六万〇、六五四台。

◆輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電

銅スクランブルは輸出増加、輸入は減少

気銅が二五・一%減の四万三、八九三t、スクランブルが三八・九%増の一萬六、〇〇〇t。

輸入

輸入は電気銅が前年比二三・四%減の一、一九六t、スクランブルが六・九%減の七、八四六t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比三・九%増の六万八、一九三t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比五・二%減の五万五、三〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】

三月の国内自動車販売台数は八五万台、五一六台で前年同月比一・二%増となり、五ヶ月連續で前年同月を上回つた。

輸出は三七万五、六五六台で前年同月比一・七%の増加。

【自動車販売】

三月の国内自動車販売台数(軽は除く)は四六万台、六五四台で前年比二三・八%増と、八力月連續プラス。

うち乗用車一四・八%増、貨物八%増、バス五%増。

【住宅着工数】

平成二十九年二月の住宅着工戸数は七万〇、九二二戸で、前年同月比二・六%減となつた。また、季節調整済年率換算値では九四〇万戸(前月比六・一%減)となつた。

・住宅着工の動向については、前年同月比で八力月ぶりの減少となつており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は増、分譲住宅は減となつた。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)

前年同月比では先月の減少から再びの増加(前年同月比六・八%増、季節調整値の前月比では二・二%増)。

(分譲住宅)

前年同月比では三ヶ月ぶりの減少(前年同月比一七・九%減、季節調整値の前月比では二・四%減)。(六面へ続く)

今月の焦点は米大統領の動向と米中会談

(四面より続く)

・分譲マンション

前年同月比では三カ月ぶりの減少(前年同月比三五・七%減)。

・分譲一戸建住宅

前年同月比では一六カ月連続の増加(前年同月比〇・九%増)。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比三・九%増の六万八、一九三tと、七カ月連続増加。

このうち、内需は五万六、二七六tで二・七%増と、七カ月連続プラス。輸出は一万一、九一七tで一〇・二%増と、四カ月連続プラス。品種別では、銅条は二万一、八六四tで九・〇%増と、一〇カ月連続プラス。黄銅棒一万六、六八〇tで五・七%増と、一〇カ月連続プラス。

【電線】

前年比五・二%減の五万五、三〇〇t。このうち、国内が四・一%減、輸出が四二・五%減。

出荷部門別では、通信五・九%減、電力二〇・九%減、電気機械〇・八%増、自動車四・一%増、建設・電販六・六%減、その他内需七・九%増。

【輸出】電気銅輸出が二五・一%減の四万三、八九三t。銅スクラップは三八・九%増の二万六、〇〇〇t。【輸入】電気銅が一二・四%減の一、一九六t。スクラップは六・九%減の七、八四六t。

【見通し】

・自動車は生産が一一・二%増。三月の国内販売台数が前年比一三・八%増。生産が五カ月連続プラス、販売も八カ月連続プラス。

・生産、販売共に二ケタ増加しており今後の動向に注目。

・住宅着工の動向については、前年同月比で八カ月ぶりの減少となつておらず、今後の動向に注意が必要。

・伸銅は七カ月連続プラスの前年比三・九%増。輸出が四カ月連続プラス。需要の多い銅条が一〇カ月連続プラス。黄銅棒も一〇カ月連続プラス、今後の回復に期待。

・電線は輸出が四二・五%減と大幅減。

需要の多い自動車、建設・電販がそれぞれ四・一%増、六・六%減。全体として減少傾向。

・銅輸出はここ最近の価格の下落傾向と期末要因から地金は減少。スクラップはメーカーの買い控え傾向から増加。

・銅輸入は期末要因の買い控えから減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は昨年からのトランプファイバーを受けて大幅増加したが、その後価格は高止まりしているものの売り玉もなく、大幅減少しているのではないか。

需要面に関しては、住宅で陰りがみられるものの、自動車など生産販売は好調であり、新年度入りした四月は一斉に買いが始まり、需給が引き締まるのではないか。

【価格・為替予想】

今月もトランプ米大統領の発言・政策と米中会談後に左右される。

トランプ米大統領に関しては、先のオバマケアの代替法案が議会を通過しなかつたことから政権運営に不透明感が出てきている事は確か。今後大幅減税、金融規制緩和などの法案が通過するかどうかに注目。

米中会談は、国境税問題、領土問題があるが、国境税問題などに関してはお互い一定の理解を示すものの、領土問題では両者譲らず平行線の議論になるのではないか。

それらを踏まえた四月の銅価格は、トランプ米大統領の法案や人事が議会を問いかける通過し米中会談で新たな摩擦がおきないかの条件も達成できなかつた場合、三月後半安値の五、七〇〇ドル。

為替は前月に続きトランプ大統領の上記政策の進展と為替への言及次第。

それらを踏まえ予測は、前記政策が進展した場合ドル高円安が進むが、為替への言及があれば大幅円高に振れる場合もあり、高値は三月後半高値一段高の一〇〇円台(T.M.)を予測。いずれも行われなかつた場合、同安値の一四円台を予測。

銅建値に関しては六七〇・七一〇円程度と予測している。